

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 21 番 氏名 西 田 清 久

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 ブータン王国との今後のつながりについて

① 市長は今年10月に、美術教育支援の視察にブータン王国を訪問されるが、ブータン王国と浜田市とのつながりは、石州和紙のつながりから始まって現在までに築かれた絆も多くあると思う。どのような展望をもって訪問されるのか所見を問う。

2 終活支援条例・おひとりさま支援条例について

① 会派視察で訪問した神奈川県大和市では、近年社会問題となっている高齢者の孤立や身寄りのない方々の増加により、「おひとりさま支援課」を設置し、事業を推進していく中で、「終活支援条例」、「おひとりさま支援条例」を制定し、高齢者などのおひとりさまが、孤立することなく日々の生活を送れるようにされている。

浜田市においても同様の環境にあると思うが、条例制定について所見を問う。

3 浜田市の医療 MaaS とオンライン診療の実現について

① 医療 MaaS については、医師不足や財政面での課題があると思うが、オンライン診療の可能性は高いと思う。国保診療所等を活用したオンライン診療ネットワークを構築する考えはないか問う。

4 浜田市にあるもの（資源）を最大限活用する取組について

(1) リハビリテーションカレッジ島根について

① リハビリテーションカレッジ島根については、中国電力三隅火力発電所とともに旧三隅町が誘致し、平成10年にオープンした福祉系の学校であるが、さまざまなことを乗り越えて現在がある。経営的には極めて厳しい環境にあると思うが、約200名の学生が浜田に通い、暮らし、また地域の要望には積極的に協力されている。

理事、経営陣もかなり変わられたが、市としてのリハビリテーションカレッジ島根の存在をどのように認識しているのか問う。

(2) 美又温泉うるるのオープンについて

① 「美又温泉うるる」が12月にオープン予定だが、新たな地域資源の魅力を最大限発信し、地域内外の多くの観光客にも来訪の期待が大きい。

観光客の期待を裏切らないためにも、飲食やソフト面のサービス『おもてなし』の提供が重要に思うが、市の考えを問う。

(3) 浜田市の生活文化資源の価値について

① 8月下旬に3泊4日で一般財団法人「日本国際協力センター」のマネジメントで日本政府（外務省）が推進する青少年交流事業が行われた。浜田市には、エジプトから高校生25名が訪れホテルや民泊で浜田の文化や田舎暮らしを体験した。

アフリカの次世代を担う青年が、交流を通じて日本人との相互理解を促進することを目的に行われた事業だが、浜田を選ばれたことについて市長の所見を問う。

(4) 浜田遺産制度の制定について

① 岩手県遠野市の「遠野遺産制度」は、市民自らが地域の有形・無形の宝を発掘し、次世代へ継承することを目的として創設された制度で、市民参加型の文化財保護・地域づくりの施策として全国的にも注目されている。

国や県の指定文化財とは異なり住民の愛着や主体的な保護・活用を重視する「ボトムアップ型」の地域遺産であり、浜田市としても大変参考になる制度であると思うが、所見を問う。